

■今月の特選句

2016年4月

卒業や恩に気付かぬ顔ならべ

金澤 健

いつの世も親の恩は親になって気付くもので、気付かぬ顔を平然とならべていることが滑稽。ここで一句。「卒業や親と恩師の思うけて」。

叩かれてゐるが幸せ干蒲団

稲沢進一

蒲団を擬人化した句であるが取り合わせの一句。「叩かれる」「幸せ」の、プラス・マイナスの組み合わせが良い。「寝小便の少年叩かれ干蒲団」。

ほろの字に苦さやはらぎ蒨の臺

梅岡菊子

この苦味をなんと表現すべきかと考えたのだろう。「ほろ」の字をつけてみたところぴったり。ここで一句。「ほろ苦きものに失恋蒨の臺」。

ひな祭りお内裏さまは政治婚

久我正明

変わり雛ですね。目出たい筈のお雛様が、不倫雛とか薬物疑惑雛とか賭博雛だと具合悪いね。「本心を隠して細目享保ひな」ぐらいかなあ。

蕨餅粉を身にして喰はれけり

下嶋四万歩

「身を粉にして」働いたのが昭和の人間である。勤勉な下嶋四万歩君は「蕨餅は粉を身にしてる」と気付いた。「逆転の発想で詠み特選句」。

春一番ほしがる帽子呉れてやる

原田 暉

こういうのを強がりという。男の子だね。その帽子どうなりましたか。他人事ながら気になる所。「春一番にとられし帽子眼で追ひぬ」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

嫁が君鼠返しを越えて来し

・ ・ ・ 鼠算なる子らを引き連れ

ひがし愛

男運無き娘のあくび日向ぼこ

・ ・ ・ ぼかぼか気分だけを愛して

小泉花子

落第生酒場女を連れ戻り

・ ・ ・ このふるさとで開く居酒屋

飯塚ひろし

言ひ訳を床で巡らす朝寝かな

・ ・ ・ 名案のなく叩き起され

加川すすむ

入社式終えて花見の初仕事

・ ・ ・ 幹事の腕を社長に見せる

岡野 満

Vサイン平和な国の鳥雲に

・ ・ ・ 棹になりては平和の支え

伊藤洋二

わが幸はひとの不幸や董咲く

・ ・ ・ 逆も真なり毀誉と褒貶

越前春生

獅子岩も大欠伸の体春の凧

・ ・ ・ 冬のあいだは大波食らひ

佐野萬里子

ひねくれた枝ほど賞でる梅の花

・ ・ ・ 愛でる爺はもつとひねくれ

池田亮二

冬陽私の背にも寄ってって

・ ・ ・ 減るもんじゃなしサービスしろよ

鈴木和枝

策売りの栄螺は大の上に置き

・ ・ ・ 下積み修業員の世界も

田村米生

襟巻となつて銀ブラする狐

・ ・ ・ なるほどそれが銀狐だね

新島里子

竜天に登る梯子を外されて

・ ・ ・ 天に昇るや告げ口せむと

西をさむ

■今月の滑稽句

	万愚節魔物の金にあくせくし	青木輝子
【佳作】	方便で断る勇氣万愚節 独り居の下流老人目刺焼く	青木輝子 青木輝子
	先住は我とばかりに古き鴨 流煙や波線のさまで寒風裡	青山桂一 青山桂一
【佳作】	微睡(まどろみ)もこれが最後と鴨どちは	青山桂一
	金持ちのやうに巻くなり春ショール	赤瀬川至安
【佳作】	鴉の子発声練習あアばかり どら猫とねずみも混じり吊し雛	赤瀬川至安 赤瀬川至安
【佳作】	恐るべしマイナス金利凍返る その意見田螺はなじる違憲とや ややこしい世相に惑う桃の花	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
	鶯よ稽古は他所で終えて来い	有富洋二
【佳作】	伊予柑を剥けばチャンネル動かせず 遠足の帰りのバスに睡魔かな	有富洋二 有富洋二
【佳作】	山笑ふ家より大き国旗描き 村長も駐在さんも雛の客	飯塚ひろし 飯塚ひろし
	今まさにセブンティーンなる白木蓮 疑ひは咳となって咳き込めり	井口夏子 井口夏子
【佳作】	水仙のそむきあひつつ萎れゆく	井口夏子
	女房の尻どかんと春の重力波	池田亮二
【佳作】	春遅し鳥肌で売る薄ごろも	池田亮二
【佳作】	愛国の押し売りのあり紀元節 春遅しお金預けて利子取られ 猫柳三途の川のこちら岸	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦

	負の金利煽てど鳴かぬ揚げ雲雀	伊藤洋二
【佳作】	お供へは牡丹餅よりも浪花節	伊藤洋二
【佳作】	ここに居てどこへも行かぬ大噓 人の名を思ひ出させり笹鳴ける	稲沢進一 稲沢進一
	利休の忌茶道は我流菓子美味し 娘は嫁ぎ雛をゆると居座らせ	井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	今の世を御覧じらるる雛納む	井野ひろみ
	旅立ちの娘に背を向ける朧月	上山美穂
【佳作】	畦道や穴を出でたる蛇またぐ 貝殻を夢中で探し春の浜	上山美穂 上山美穂
	うどん屋に讃岐遍路の杖の数 濡れ縁に春蘭愛でる爺と婆	氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	鳥帰る持たせてやりたやコンパスを	氏家頼一
	河鹿笛BGMのレストラン	梅岡菊子
【佳作】	初土筆朱塗りの椀はどこだつけ	梅岡菊子
	犬ふぐり一面に咲き妻笑ふ 口髭にめし粒一つ三鬼の忌	越前春生 越前春生
	サクラサク論吉見送る門出かな	岡野 満
【佳作】	春風や肩の荷下ろす定年日	岡野 満
	花粉症猿でもなるに吾なれず 雛壇のてっぺん狙う三官女	小川鈍太 小川鈍太
【佳作】	愛猫の恋の相手は親分の娘	小川鈍太
	異常気象置き去りのまま二月尽	奥脇弘久
【佳作】	墓地案内電話で気づく春彼岸 任期中成しとげるとか春朧	奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	しばらくはレディー諦め花粉症 自分史の余白にマンガ西行忌	加川すすむ 加川すすむ

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | 入学のスキップに鳴るランドセル
飛火野の下萌を踏む土踏まず
羽化の蝶憂世の風に身震ひす | 笠 政人
笠 政人
笠 政人 |
| | 花見重梅色桃色櫻色 | 加藤澄子 |
| 【佳作】 | 春ノ雷髪ハクロウデシロナル
お話ししましょうおばあちゃんのお雛さま | 加藤澄子
加藤澄子 |
| 【佳作】 | 読めぬ字の蝌蚪に手が生え足が生え
然るべくグリコにおまけ世に余寒 | 金澤 健
金澤 健 |
| | 幻の母雛壇を飾り居り
子を膝に父がふらここ漕ぐ土旺 | 川島智子
川島智子 |
| 【佳作】 | 暗がりに存在しめす沈丁花 | 川島智子 |
| | 今生はスタミナ不足春炬燵
ブロッコリー・カリフラワーや春寒し | 菅野あたる
菅野あたる |
| 【佳作】 | 分譲の猫の額に物芽出づ | 菅野あたる |
| | スカートの下は短パン春一番 | 久我正明 |
| 【佳作】 | 答案のぐしゃぐしゃとなり花粉症 | 久我正明 |
| | ロケットを宇宙に飛ばし野に遊ぶ
ご自慢のねこなで声の猫の夫 | 工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 | 猫の尾は東に向いて涅槃西風 | 工藤泰子 |
| 【佳作】 | 雪女湯浴みせむとて帯を解く
車窓過ぐ喜寿と言ふ駅花吹雪 | 小泉花子
小泉花子 |
| | 売れのこりなんて残花に失礼な | 小林英昭 |
| 【佳作】 | 啓蟄や勝負下着に替へてある
隣国の黄砂にまざる粗悪品 | 小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】 | 桃の花寒波に蕾堅くせり
ブロッコリー 蘭(た)けて爆発花冠 | 佐野萬里子
佐野萬里子 |

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 梅を見てすっぱい貌の過敏症
饒舌の唾と柳絮と似て非なる | 下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| | 恋猫を聞きつつ開く袋綴ぢ
啓蟄に嬉天下が牙を剥く | 壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】 | ストーカーの如スケート嬢に追はれけり | 壽命秀次 |
| | 吟行のご一行様春來たる
受験子の頼みの綱は神のみぞ | 白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 | 時は金寸暇を惜しみ春眠す | 白井道義 |
| | ネクタイに絞められている新社員 | 鈴鹿洋子 |
| 【佳作】 | 針山を歩くが如き絵踏かな | 鈴鹿洋子 |
| 【佳作】 | 喪服の列桜の開花狂わせる
挟み直してチチチチチ体温計 | 鈴木和枝
鈴木和枝 |
| | 悪知恵が少し心配知恵詣
点滅の赤信号やみどりの日
朝霞景色みんなが二日酔 | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| 【佳作】 | 佐保姫や道草したり走つたり
孫自慢かと思ふたら仔猫自慢
姑は二十歳になりぬ閏二月尽 | 高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ |
| 【佳作】 | 眼光の挑みありけり春の月
芳草や軟酥の法を觀じたる
春の夢弥陀の法とか聞かまほし | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | レジ前でもたもたもと着ぶくれて
やまんばの弛い涙腺臙月
冷や水というてくれるなバイク駆る | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | この俺がはめられるとは四月馬鹿
春セーター子の御下りよだぶだぶだ | 田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 春うらちちょっと床屋へ行ってくる
食べ切れぬ菜っ葉菜の花畑なり
あと四年夏季五輪まで生きぬくぞ | 津田このみ
津田このみ
津田このみ |
| | 暖冬や着たり脱いだりファッションショー | 土屋泰山 |
| 【佳作】 | 卒業式教師はそっと深呼吸
街がみなアロマサロンや沈丁花 | 土屋泰山
土屋泰山 |
| | 山笑う又伯父さんの高砂や
啓蟄や待ち構えたる敵七人 | 都吐夢
都吐夢 |

【佳作】	上げ底を誰も咎めず山葵漬	都吐夢
	風の子と引き籠りある二月尽	飛田正勝
	紅梅に絡む白梅奥の院	飛田正勝
【佳作】	東京も早慶もパス入学子	飛田正勝
【佳作】	春の夢覚めれば後期高齢者	中井 勇
	今はもう主のいない雛人形	中井 勇
	温暖化最速更新初桜	中井 勇
	朝寝して日中も仮寝夜はぐつすり	新島里子
【佳作】	春火桶爺お得意の二枚舌	新島里子
【佳作】	幻かひと日遅れて四月来る	西をさむ
	寝返りを打てば長閑な屁のひびき	西をさむ
【佳作】	夢希望未練束ねて卒業す	花岡直樹
	志望校うらうららと狙い撃ち	花岡直樹
	春めいてビールの泡も踊り出し	花岡直樹
	おほいぬのふぐりや無邪気にゆれてをり	原田 暉
【佳作】	風強き日や前山に杉の花	原田 暉
【佳作】	蝌蚪の群自分探しの旅に出る	ひがし愛
	生身魂百歳迎へ五十肩	ひがし愛
	手妻使ひ今はマジシャン初蝶来	久松久子
【佳作】	利息ゼロ関係ねえと鳥交る	久松久子
	すが漏りや利息のつかぬ閏月	久松久子
【佳作】	風邪ぬけずこれじや総活躍ならず	日根野聖子
	クロッカス片仮名文字のお手本の	日根野聖子
	白酒につき出されたるおちよぼ口	日根野聖子
	師の賺(すか)す猿の竹馬初稽古	藤岡蒼樹
【佳作】	学歴のきかない会社梅の花	藤岡蒼樹
	紅梅やかすかもつれの口閉ぢる	藤岡蒼樹

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 杉の花人困らせるつもりなく
着ぶくれや笑ふ門には服着たる
浅き春チワフと会へばこんちわわ | 藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉 |
| | また今日も春に待ったをかけられる
春光に物干し竿を差し入れる | 藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 | ぼんやりとする事が好き春隣 | 藤原セツ子 |
| 【佳作】 | やおら寝てやおら起きてる今朝の春
寝ても尚未だ眠たいよ木の芽時
暖かき春は春とて杉花粉 | 細川岩男
細川岩男
細川岩男 |
| | 白椿名前白寿に手が伸びる
しまなみの宿ののどかさ魚料理 | 細川寛子
細川寛子 |
| 【佳作】 | 干潮に生計託すひじき刈 | 細川寛子 |
| 【佳作】 | 亡き父に似る豆撒きの声と所作
恋猫の毛並みつくろふ暇もなし
くしゃみ涙目吾をいじめる春となる | 本門明男
本門明男
本門明男 |
| | 三椏やかつての紙の里に咲き | 松井寿子 |
| 【佳作】 | ヤマガラに日向ぼっこ椅子ゆずる
風の来て丁字の香に包まれる | 松井寿子
松井寿子 |
| | 空笑いして恋やつれの猫迎え
日章旗星条旗重なりもつれ春一番 | 松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 | 春泥渡る二人三脚躊躇せず | 松井まさし |
| | 菜の花の海で泳げと処方さる | 三橋百笑 |
| 【佳作】 | 春の声トーンの弾けて幼稚園
春風や座仏は夜の散歩せり | 三橋百笑
三橋百笑 |
| | ふるさとの水脈枯れず露の臺 | 宮森 輝 |
| 【佳作】 | かたくりの花もの思ふうなじかな
青空へウインクしてゐる春りんどう | 宮森 輝
宮森 輝 |
| 【佳作】 | 泣きながら兄の後追ふ草若葉
畦道をふかふか帰る春の猫
誰よりも青空が好き紙風船 | 百千草
百千草
百千草 |

<p>雛納すました顔のほどけおり スッピンに花粉症のウルメイク 【佳作】 残されし隙間をうめるつくづくし</p>	<p>森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子</p>
<p>【佳作】 撫でるとは癒されること春火鉢 春の季語花粉症用マスクなら はこべらや複数形か問はれたる</p>	<p>八木 健 八木 健 八木 健</p>
<p>【佳作】 隠れん坊尻を隠して山笑ふ 川の字の真中にねまる子猫かな 春灯や平手造酒(ひらてのみき)も呑みし酒</p>	<p>八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑</p>
<p>四月馬鹿目立って首のエキストラ 【佳作】 大試験地獄の沙汰も紙一重 万愚節丁寧に言ふお馬鹿さん</p>	<p>柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生</p>
<p>【佳作】 鳥の来て人の来て池小春かな ひとときを氷雨許さず急ぎ足 蠟梅に紅白春の三姉妹</p>	<p>山下正純 山下正純 山下正純</p>
<p>万灯の思い届けよ震災忌 うらかや信号待ちのアニメ歌 【佳作】 満員のベビーカーなりあたたかし</p>	<p>山本けい子 山本けい子 山本けい子</p>
<p>これはレンタル鉢に一本のさくら 雛の目どうかしてゐる洗濯機 【佳作】 メモにある二十九分春の謎</p>	<p>山本 賜 山本 賜 山本 賜</p>
<p>身ぐるみを剥がされ夏の羊かな 【佳作】 虚言の世万愚節など屁の河童 仰ぐ気のさらさらなくて卒業す</p>	<p>横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎</p>
<p>【佳作】 残すほど美田もなしに申告す 正論を吐いて疎まる万愚節 カラオケの囀り自慢歌詞なぞる</p>	<p>吉原瑞雲 吉原瑞雲 吉原瑞雲</p>